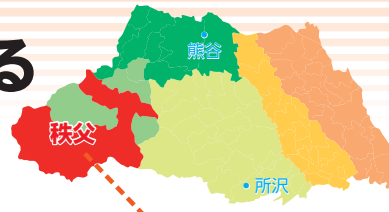


イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②

秩父市 久喜 邦康 市長 (59歳)



3Kをキーワードに地域経済の活性化を
推し進めている久喜邦康市長

3つのKをキーワードに施策を実施

当市では地域経済の活性化に向けて現在、「雇用」と「観光」、「環境」の頭文字を取って、3つのKをキーワードに取り組んでいます。中でも、雇用問題は各種の市民アンケートで常にトップの要望となっているほどで、就業場所を確保することで、市民の皆さんが安心して暮らすことができ、人口の増加につながります。そこで、地元企業を元気にすることが何よりも重要なことで、2007年度から秩父地域1市4町の産業振興を図るために、中小企業診断士の資格を持った専門家による訪問型の企業支援活動を始めました。

活動から6年が過ぎましたが、企業経営者の理解も深まり、より深層部分の相談に発展することも増え、課題の解消と販売力の向上などが図られているところです。さらに、競争力の強化という観点から、環境活動や商談会、展示会への出展などの取り組みも強化しました。環境は3つめのキーワードにも関連することですが、地元企業が環境マネジメントシステムの認証を取得することで、競争を勝ち抜いてもらいたいと支援しているところです。また、秩父地方は昔から絹織物の生産地として知られ、秩父銘仙として全国に名が通っています。その秩父銘仙が昨年12月26日

に国の伝統的工芸品として指定されました。今後は、後継者の育成や新商品の開発を進め、支援を強化することとしています。

企業支援の取り組みは、これだけではありません。市内経済の活性化と市内中小事業者の振興を図る観点から、秩父市住宅リフォーム助成事業も積極的に推進しています。20万円以上のリフォーム工事に対して、工事費の10%（上限15万円）を助成するもので、2013年度実績で現在までのところ154件の申請があり、1,800万円を交付しました。この事業では、経済波及効果が約13倍にも上るとの試算もあり、地域経済の活性化に十分に役立っているのではないのでしょうか。リフォーム事業だけでなく、新築の場合には地元産材を使用すれば、他の助成制度も用意していますので、定住人口の増加にも寄与しているものと自負しています。また、安全・安心なまちづくりを推進するため、街路灯の新設や防犯カメラを設置する商店街への補助金など、商工分野に対する支援も実施して地元経済を盛り上げています。

県内トップクラスの支援で企業誘致

雇用を確保するための事業で、最も効果的な手法に企業誘致がありますが、昨年初めて秩父地域1市4町で「秩父地域企業立地ガイド」を共同作成しました。秩父地域は地盤が強固で災害に強く、良質で豊富な地下水もあり、食品関係など水を使う企業が立地するには適した場所ではないかと、積極的に企業誘致活動を実施しています。特に、当市には県内トップクラスの工場立地支援制度を設けていますので、立地する企業にとっては魅力的で、大いに企業の進出が期待できることでしょう。

2つ目のKの観光ですが、観光地として県内では川越がつとに有名ですが、当市も年間400万人前後の観光客が訪れ、秩父圏域で

◀国の伝統的工芸品に指定された秩父銘仙。後ろは「ちちぶ銘仙館」



は700から800万人に達します。最近、西武秩父線の存続問題がマスコミに取り上げられ、一躍脚光を浴びることになり、都心から秩父市内にお越しになるお客さまも増えました。今年1月には、東京ドームで行われた「ふるさと祭り」では、秩父夜祭で知られる笠鉦が注目を集めましたし、三峯神社で毎月行われる祭事や神事の日には、観光バスを連ねて大勢の観光客が訪れています。その観光で地域経済を活性化させるため、観光情報の発信強化と観光客の受け入れ態勢の一元化を図るため、秩父地域1市4町で組織する「秩父地域おもてなし観光公社」の体制を充実させました。

具体的には観光公社のホームページやフェイスブックで、秩父地域観光情報を一元化し、「ビジットジャパントラベルマート」や「ふるさと祭り東京」への参加、「秩父ってんべえウォーキングの2Day化」などです。ウォーキングはこれまで、1日の開催でしたが、これを1市4町にエリアを拡大し、2日間の日程で行うことにしました。また、今後は「秩父巡礼バスの運行」を開始する予定であり、秩父地域の祭りを紹介する「秩父まつり会館」が老朽化してきましたので、いよいよ大規模改修を行うことにしています。2020年には、東京でオリンピックが開催されることになり、一層増加する外国人観光客も視野に入れながら、観光客の多様なニーズに対応した観光メニューを開発し、おもてなしの心でニューツーリズムを推進していきたいと思っています。

荒廃する森林を守るため木材で発電

最後のK、環境ですが、当市は2012年度から県のエコタウン・イニシアティブプロジェクトに指定されているため、地域資源の活用とバイオマスエネルギーへの展開を目指して現在、吉田元気村にある100キロワット級の発電所に替わり、民間によるメガワット級の発電施設の誘致を推進しています。大きな特徴は、未利用の林地残材を燃料として利用する発電です。秩父の森林は資源として成熟し、木材としての利用時期にきていますが、なかなか伐採が行われずに利用が進まないのが現状です。その原因は、木材価格の低迷、急峻

な地形のために多額の搬出費用が掛かることなどで、そのために山の中に放置する切り捨て間伐の状態が長く続いてきました。そこで、搬出が可能な場所においては、素材と合わせて未利用の林地残材を燃料として買い取るシステムを構築し、少しでも森林資源を活用することで森林を守る取り組みを推進していきます。さらに、買い取った燃料を利用した発電により、地元企業への電力供給を行う「グリーン電力」という、特典を付けた企業誘致を積極的に働き掛けることで、林業の再生と雇用の創出を図りつつ、環境保全に取り組んでいきます。

3Kというと、マイナスなイメージがありますが、私の名前を含めてKにはこだわりを持っていて、今年の年頭所感でも職員に対して3Kの推進を訓示しました。新たな挑戦ということで、この3Kに力を注ぎながら地域経済の活性化を図っていくことで、地域全体が明るくなればと願っているところです。そのためにも、地元金融機関である武蔵野銀行さんとも連携を強め、市内中小企業や新たな起業者への積極的な融資と、育成支援をお願いしたい。また、ぶぎん地研さんには秩父の魅力を様々な機会を通じて、全国に情報発信して頂きたいと願っています。次回は、定住人口の取り組みに対して同じ仲間であり、チャレンジ精神旺盛な児玉郡美里町原田信次町長に引き継ぎます。

秩父市の概要

人口 (平成22年国勢調査)	66,955人
世帯数 (同上)	24,146世帯
平均年齢 (同上)	47.3歳
生産年齢人口比率 (同上)	59.6%
面積 (同上)	577.69平方キロメートル
名目市内総生産 (平成22年度市町村民経済計算)	2,008億300万円
事業所数 (平成22年工業統計)	167事業所
製造品出荷額等 (同上)	1,227億6,189万円
事業所数 (平成24年経済センサス)	3,501事業所
年間商品販売額 (平成19年商業統計)	977億4,627万円